

写真出典：防衛省(焼失した輪島朝市周辺でのドローンによる搜索活動の様子)

2024年の元旦に能登半島地震が発生しました。古い木造住宅が密集した輪島市では、地震により大規模火災が発生し、約240棟の建物が焼けて壊れました。

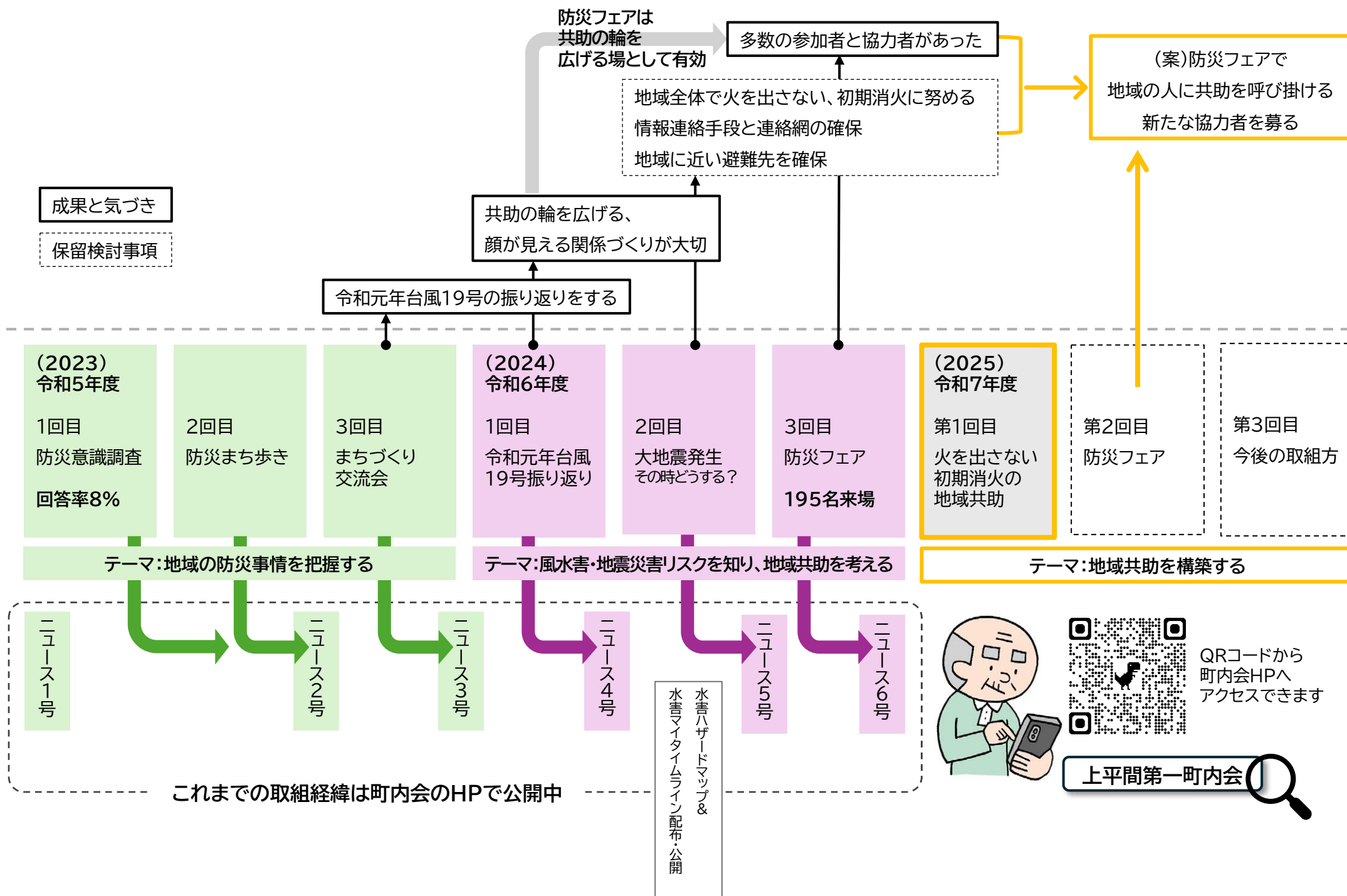
上平間地区も火災延焼のリスクが高い地域であることはご存じですか？各家庭で備えを見直し、共助で地域を守りましょう。

上平間地区防災まちづくりワークショップ

～一人でも多くの命を助けるための地域共助を考える～

2025年6月

上平間第一町内会



2024.09.21. WS まとめ

- ・大地震が発生すると上平間地区は「延焼」「倒壊」「液状化」の3つのリスクが顕在化します。WSでは、建物クラスターにある上平間地区の延焼シミュレーションを見ながら、地震火災が発生した時の地域のリスクと対策(案)について話し合いました。
- ・大災害時は「(消防や警察等の)公助」が機能しません。命を守り、被害を最小限に留めるには「(地域の)共助」と「自助(の備え)」が特に重要です。防災まちづくりWSでは、引き続き、「地域でできること」と「地域で何をやるのか?」の具体策を話し合っていきます。

WSの話し合いポイント その1 大地震発生時のリスク

上平間地区から広域避難場所までは約2~3kmある



広域避難場所が遠い。 大火事時は上平間からの避難が困難になる

- ・大火事発生時に逃げるべき広域避難場所まで遠いことが怖い。逃げる場所がないことと、家の周りの道が狭いことが不安
- ・広域避難場所までが遠すぎる…
- ・河川敷の広域避難場所は津波に対して本当に安全なのか?
- ・地震の時は皆が被災するので避難が困難になる
- ・東日本大震災の時には川崎市内も大渋滞して車の移動が大変だった。大地震発生時は火災も発生して、ガソリンやバッテリーを積む車は発火する。車避難はできない
- ・南武線の向こう側に広い敷地があるが、2mフェンスがあるので線路を越えることができない

①大地震が発生すると避難が困難になる



どこで火災発生しているのかがわからない 地域での情報共有の方法がない

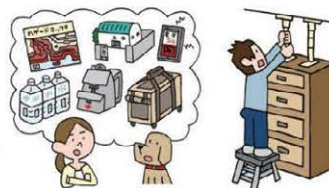
- ・消火器や持ち出し用の避難袋の用意はしているが、大火事が発生した時にどこへ逃げたらいいのかわからない、道もわからない…
- ・逃げるにしても、情報が入ってこないで、自分の目で見て判断するしかない。隣の屋上にあがって火事などの状況を把握したい



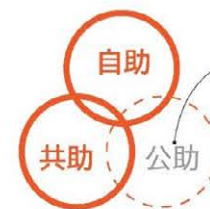
・火事が発生したら街が6時間以上も燃え続けることが恐ろしい。

個人の備え(自助)

- ・防災用品を準備しておく、家具の転倒防止をする
- ・マンションでは風水害の心配は少ないが、大地震時はわからない。マンション内でも大地震時の話し合いが必要だと思った
- ・新潟地震を経験した息子から「とにかく水が必要」と聞いた
- ・大地震の時は家具が倒れても安全な場所でのしごうと思っている



②命を守るためには「2つの助」が特に重要になる



消防や警察、行政も被災するため、迅速な救助や支援が働かない

WSの話し合いポイント その2 地域の対策(案)

次回のWSで話し合うこと

共助

- ・災害時の共助には人材が必要。去年の防災アンケートでは、役割があれば手伝えると回答する人が多かった。
- ・防災訓練も法田寺を借りたり、親子連れも楽しめるメニューを用意している。まずは、顔が見える関係づくりが大事。
- ・避難誘導は消防(団)とも連携したい。
- ・大地震の時の地域共助のタイムラインも考える必要がある。

共助メニューその1: 情報連絡網

- ・火災が起きた時の連絡網が重要。いかに町会に正確な情報を吸い上げて対策をするのか。
- ・町会の役割は「情報の集約」。釜石でも防災訓練のおかげで、一人も被害を出さなかった事例がある。
- ・災害時は電気も電話も通じない。連絡手段にトランシーバーが使えるだろうか?

共助メニューその2: 避難

- ・遠すぎる広域避難場所の代わりに住宅展示場を一時避難場所として使えないだろうか?

初期消火

- ・初期消火に努めたい。(消火器、消火ホースキット、出火予防の感震ブレーカー等)
- ・町会に消火ホースキットがある。使える人を増やしたい。
- ・町会には消火ホースキットが一つ。これを増やして色々なところにおきたい。

災害発生フローと上平間地区の対策(案)

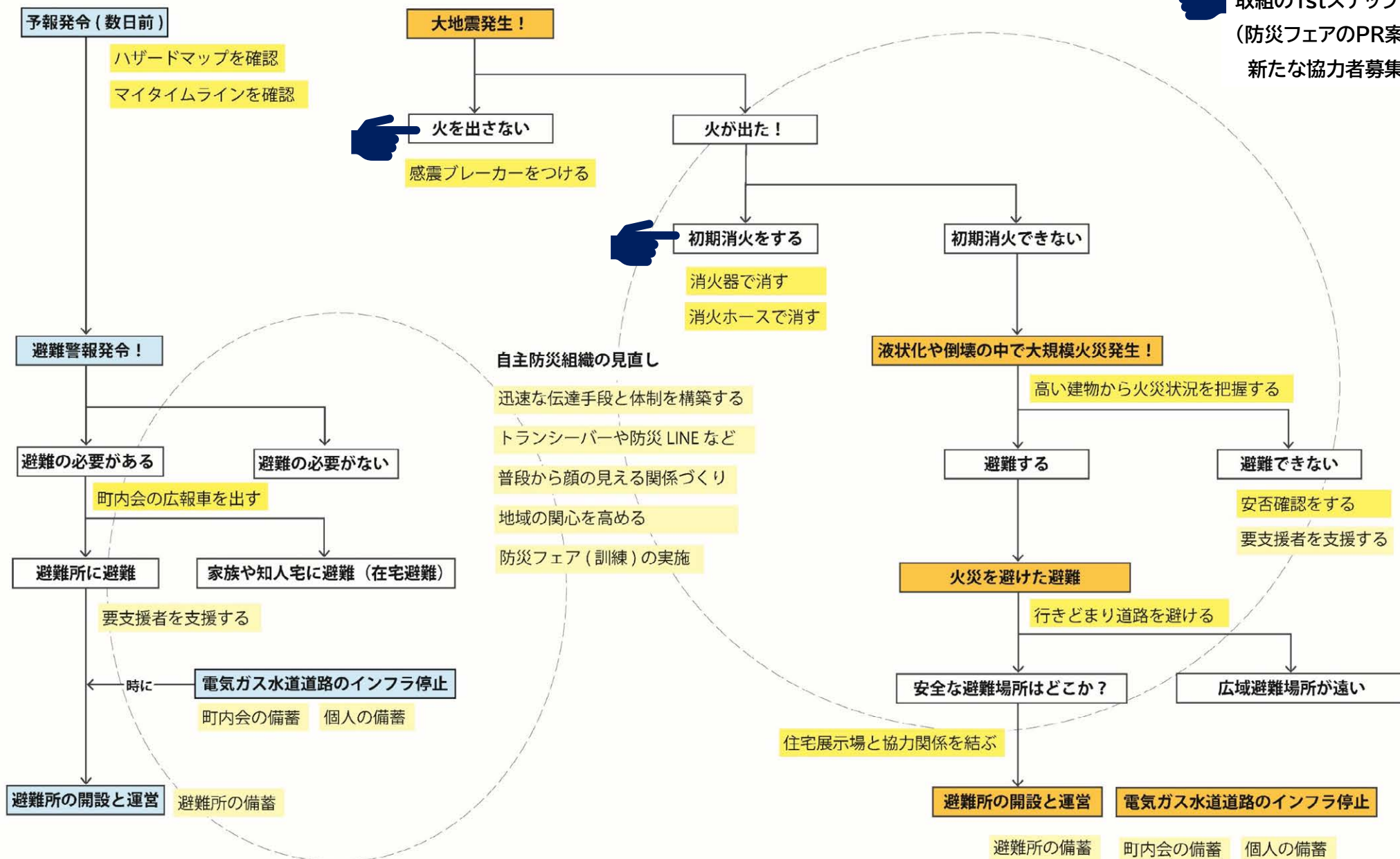
2025.03.09振り返り会

令和5年度と6年度で話し合ってきた発災時のリスクと共助の対策案を下图に整理しました。
風水害は備える時間がありますが、地震災害は一度発災すると、リスクの顕在化が目まぐるしく変わります。
上平間第一町内会の「地域共助」として何を重点的に対策をしていくのか？引き続き話し合っていきます。

風水害の発災フェーズ 地震災害の発災フェーズ 命を守る行動の選択肢

WS で話題に上がった災害毎の対策メニュー案
(風水害と地震災害に共通する対策メニュー案)

取組の1stステップ
(防災フェアのPR案
新たな協力者募集)



(出典:経済産業省 感震ブレーカー普及啓発チラシ)

https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html



お知らせ

地震の時、自動で電気を遮断できる
感震ブレーカーをつけましょう

ご存じですか?
地震による**火災の過半数は**
電気が原因という事実。



東日本大震災における本震による火災全111件のうち、原因が特定されたものが108件。そのうち過半数が**電気関係の火災**でした。地震が引き起こす電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、停電が復旧したときに発生する火災のことです。

東日本大震災における火災の発生原因



※日本火災学会誌「2011年東日本大震災 火災等調査報告書」より作成

電気火災対策には、**感震ブレーカー**が効果的です。

「**感震ブレーカー**」は、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に電気火災を防止する有効な手段です。

主な感震ブレーカーの種類



感震ブレーカーは、延焼危険性や避難困難度が特に高い「地震時等の電気火災の発生・延焼等の危険解消に取り組むべき地域」^(※1)及び「防火地域・準防火地域」^(※2)において、緊急的・重点的な普及促進が必要とされています。

内閣府^(※3)において、感震ブレーカー(分電盤タイプ)の「地震時等の電気火災の発生・延焼等の危険解消に取り組むべき地域」の全ての住宅等及び「防火地域・準防火地域」の住宅等への設置が勧告的事項となり、それ以外の住宅等への設置が推奨的事項となりました。

※1 地震時等の電気火災の発生・延焼等の危険解消に優先的に取り組むべきとして地方自治体が指定した地域のことです。(詳細については、大規模地震時の電気火災対策の検討について「聯合」(平成30年3月)を参照してください。)
 ※2 断熱性能に基づく「防火地域・準防火地域」の認定及び設備等の付帯等(共に耐火建築物を除く。)です。
 ※3 「内閣府」は、電気需要場所における電気設備の保安を確保することを目的として作成された内閣府規程です。設計、施工についての技術的な事項をすべて包含し、これをわかりやすく記述したもので、(一社)日本電気協会建築設備専門部会において作成されました。

感震ブレーカー設置の留意点

製品ごとの特徴・注意点を踏まえ、適切に選びましょう!

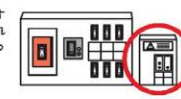
分電盤タイプ(内蔵型) 費用:約5~8万円(標準的なもの)
※電気工事が必要

分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。



分電盤タイプ(後付型) 費用:約2万円
※電気工事が必要

分電盤に感震機能を外付けするタイプで、センサーが揺れを感知し、ブレーカーを切って電気を遮断します。
※漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能



コンセントタイプ 費用:約5千円~2万円程度

コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断します。

(埋込型)
壁面などに取り付けて使うもの
※電気工事が必要

(タップ型)
既存のコンセントに差し込んで使うもの
※電気工事が不要



簡易タイプ 費用:約2~4千円程度
※ホームセンターや家電量販店で購入可能(電気工事不要)

ばねの作動や重りの落下などによりブレーカーを切って電気を遮断します。



感震装置のはたらき【分電盤タイプの場合】

基本動作

地震検知後、3分が経過すると、主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。



地震検知後3分以内に停電が発生した場合
復電直後に主幹漏電ブレーカーを自動遮断します。

感震ブレーカーの設定に際しては、**急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組むことが必要です。**

- 生命の維持に直結するような医療用機器を設置している場合、停電に対処できるバッテリー等を備えてください。
- 夜間の照明確保のために、停電時に作動する足元灯や懐中電灯などの照明器具を常備しましょう。

※感震ブレーカーの設置に関わらず、地震時その他の自然災害時にも大規模な停電が発生するおそれがあることから、平時から停電対策に取り組まましょう。

耐震対策等と合わせて取り組むとさらに効果的です。

- 避難路の確保等のために、建物の耐震化や家具の転倒防止等に取り組まましょう。
- 復電する場合には、事前にガス漏れ等がないことの確認や、電気製品の安全の確認を行ってください。
- 仮に、復電後、焦げたような臭いを感じた場合には、直ちにブレーカーを遮断し、再度、安全確認を行い、原因が分からない場合には電気の使用を見合わせる必要があります。
- 定期的な作動性能の確認や、必要に応じて部品等の交換を行いましょう。

この資料に関するお問い合わせ先

- 内閣府政策統括官(防災担当) 〒100-8914 東京都千代田区永田町1丁目6番1号 中央合同庁舎第8号館 TEL: (03)-5253-2111(大代表) ホームページ(<https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/index.html>)
- 消防庁 予防課 〒100-8927 東京都千代田区霞が関2丁目1番2号 TEL: (03)-5253-7523
- 経済産業省産業保安グループ 電力安全課 〒100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3番1号 TEL: (03)-3501-1611 ホームページ(https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2015/10/270105-1.html)

感震ブレーカー購入に関して:電気工事を行うものはお近くの電気工事店へ、電気工事を伴わないものはお近くの防災用品等を取り扱うお店へお問い合わせください。

(出典:雫石町ホームページ<https://www.town.shizukuishi.iwate.jp/docs/2020011000019/>)



油なべの場合

- (1)まず、**ガスの元栓を閉める**。
- (2)粉末**消火器**で油面を覆うように**噴射**する。
消火器がない場合には、**鍋にふたをして空気を遮断**するか、濡れタオルなどで鍋全体を覆う。
- (3)いったん消化しても、完全に温度が下がるまでふたをしておく。

ストーブの場合

- (1)**電気ストーブ**の場合は、**コンセントを抜く**。
- (2)消火器を火元に噴射する。
消火器がない場合には、**水に濡らした毛布や布などをかぶせる**か、バケツで一気に入水をかける。
- (3)火が消えた後も、天板の**余热からの再発火に注意**。

ふすま、障子、カーテン

天井に火が燃え移る際の通り道になります。急いで消火が必要です。

- (1)**消火器で火元に噴射**する。
消火器がない場合には、バケツなどで**水をかける**。(水をかける際は、上から半円を描くようにかけると効果的。)
- (2)**天井に燃え広がる前に消火**する。
- (3)間に合わなければ、ふすまや障子は蹴り倒し、カーテンはレールから引きちぎり足で踏み消す。

衣類の場合

とにかく**あわてないことが重要**。

- (1)床や地面に倒れて、**転がりながら火を消します**。
- (2)さらに水をかぶって完全に消火。
- (3)風呂場に近いう場合は、湯船の残り水をかぶるか、湯船の中に飛び込む。
- (4)髪に火が付いた場合は、化繊以外の衣類やタオルなどを頭からかぶる。

課題1: 上平間地区は地震火災のリスクがある (上平間地区の延焼シミュレーション)

シミュレーションの条件: 北風風速6m/s

↓ 複数家屋に火災が広がると消火ホースキットを使った初期消火が不可能になる

玉川小裏手の家屋から発災

① 出火～10分後

② 1時間後

③ 2時間後

④ 4時間後

出火街区の過半が燃えつくす

ガス橋通りを超えて飛び火

⑤ 4時間半後

幅員9mのガス橋通りを超えて燃え広がる

⑥ 6時間後

延焼拡大は止まらない

⑦ 8時間後

3.2haを焼いて延焼が止まる (自然消火)

木造密集住宅地(延焼クラスター)で大地震時に火災が発生すると、自然消火するまで延焼し続けるリスクがあります。





動画出典:東京都 Tokyo Metropolitan Government / 首都被災～木密地域に潜むリスク～
<https://www.youtube.com/watch?v=Pd6J9cpead8>

大地震発生！その時どうする

01

この他に
帰宅困難者の場合や
マンションの場合がある

1 まずは自分の身を守る！

大地震が起きた時に行う、最も大切な行動です。揺れを感じたら、すぐに頭を守るための安全行動を行い、その後の初期消火や避難行動につなげましょう。クッションなどで落下物から頭を守る。テーブルが近くにあれば下に入る。



発生～1分後

2 周囲の安全確認をする

揺れが収まり、自分自身の身が安全であれば、近くの人同士で声を掛け合い、お互いの状況を確認しましょう。



～2分後

3 可能な範囲で初期消火をする

近くで出火していたら、可能な範囲で火が小さいうちに消し止めましょう。一方、火の勢いが強いとき(天井に火が届くようなとき)には、その場から逃げましょう。



～3分後

4 落ち着いて出口に向かう

近くのドアや窓を開け、避難口を確保しましょう。このとき、避難口に向かうまでにケガをしないよう、足元には十分気をつけましょう。



～4分後

5 隣近所で助け合う

ご近所同士で声を掛け合いましょう。可能な範囲で初期消火や救出救助、避難が困難な方への手助けなどを行いましょう。



～5分後



※出火が天井に達したら、
自力消火は困難になる
即避難すべし！

出典:備えるかわさき

[/https://www.city.kawasaki.jp/601/cmsfiles/contents/0000015/15861/sonakawa1004.pdf](https://www.city.kawasaki.jp/601/cmsfiles/contents/0000015/15861/sonakawa1004.pdf)

大地震から避難する

02

大地震が発生しても、必ずしも避難所に行く必要はありません。
下記のフローを参考に、状況に応じた、適切な避難行動をイメージしておきましょう。
※自宅が無事であれば避難所などに避難する必要はありません。

火災からの距離と人体への危険性のイメージ(風速6mの気象条件の例)



※大規模火災時は、小中学校に避難するとは熱波で大やけどを負いますので、火災時は危険な区域です。
大規模火災の避難先は、大きな公園や緑地です！



- 家屋の倒壊や火災により自宅生活できない
- 近くの火災が拡大するなどの危険な状況
- 避難情報の発令

避難開始



自宅で生活できないとき

避難所が危険になったとき



危険がなくなったとき・避難する必要がなくなったとき



※避難所は施設の安全確認や受入準備が必要となるため、発災後すぐに開設されない場合があります。



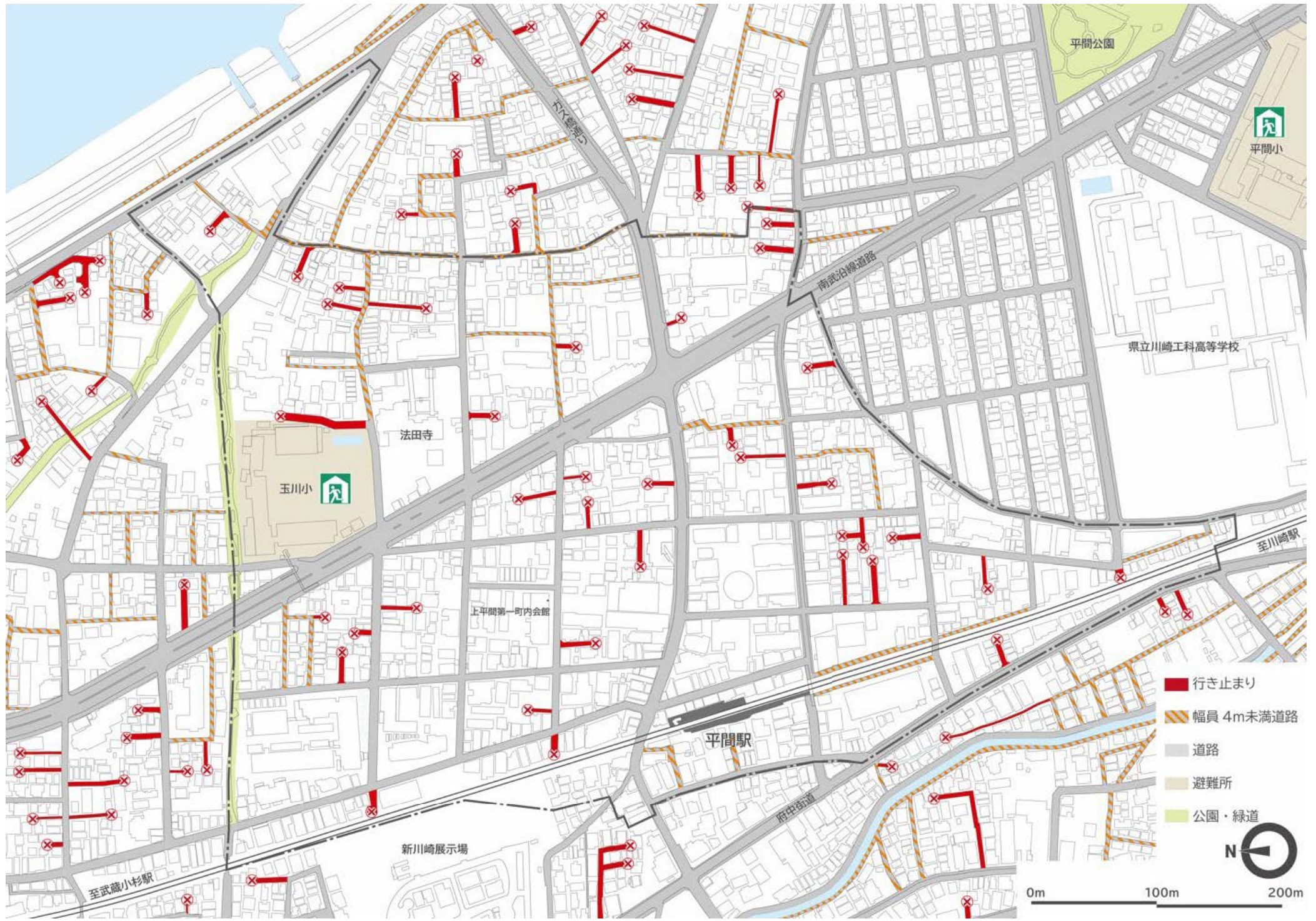
丸子橋河川敷まで約2.7~3km

上平間第一町内会

多摩川大橋緑地まで約1.8km

- ### 防災マップ
- 避難場所 (開設)
 - 避難場所 (非開設)
 - 広域避難場所
 - 津波避難施設
 - 帰宅困難者一時滞在施設
 - 防災行政無線
 - 災害時応急給水拠点
 - 避難所管轄区域
 - 急傾斜地崩壊危険区域
 - 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域

川崎市防災情報ポータルサイト
<https://portal.kikikanri.city.kawasaki.jp/index.shtml>







TBS
NEWS

福島市
きのう午後11時半ごろ

地震発生時の映像

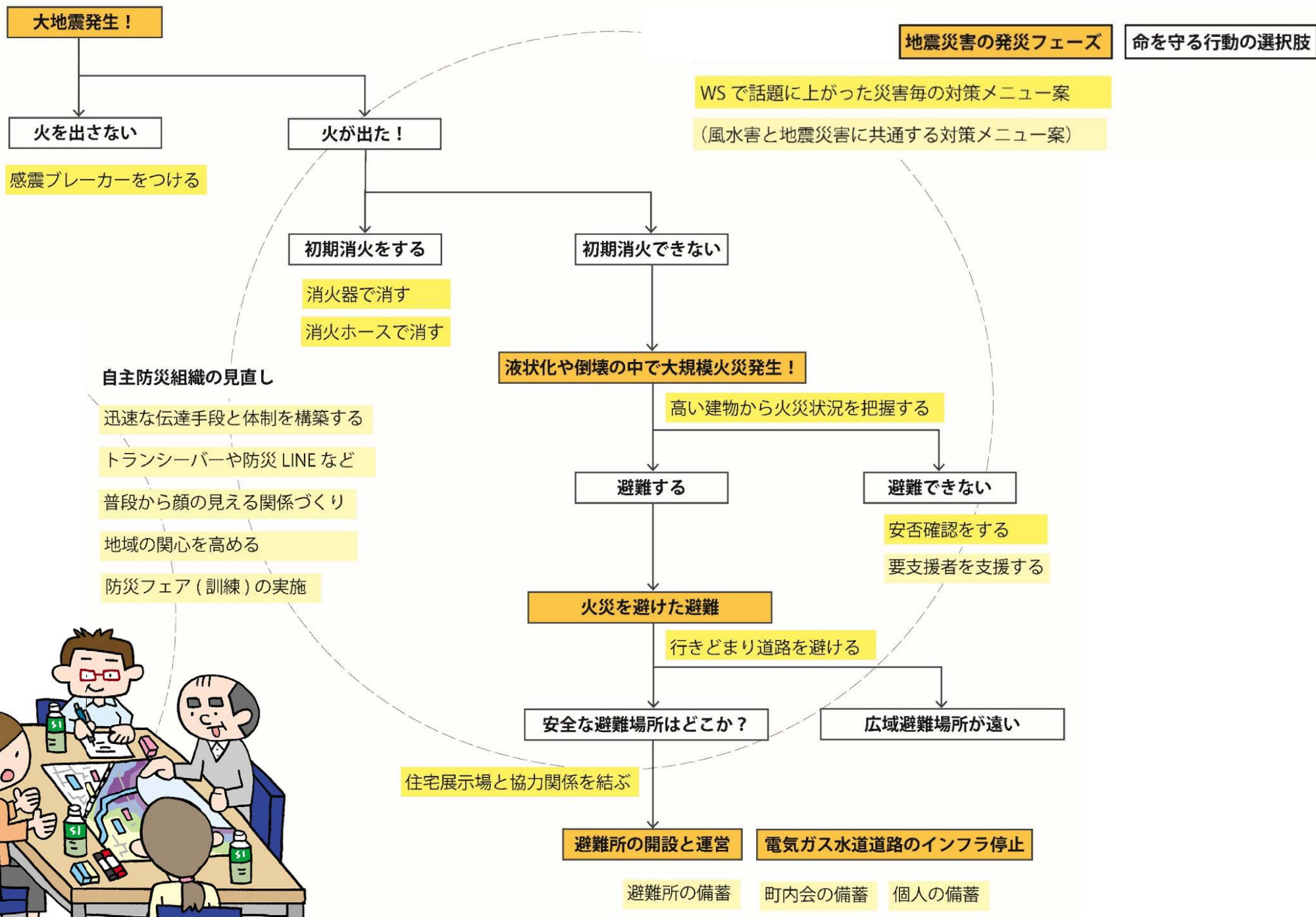
動画出典:TBS NEWS DIG Powered by JNN/各地の地震発生時、発生直後の映像まとめ【福島・宮城南部で震度6強】
<https://www.youtube.com/watch?v=H-83NBkQCwM>



大規模地震発生時の 上平間第一町内会のタイムライン検討ワークシート

①私の行動は？

	地区の状況	隣近所との行動	私の行動	一般的な行動	消防・警察・川崎市
事前の準備					
大地震発生		①身の安全を確保		①身の安全を確保	
発災から 1~2分後	家 の 中 で			②安全確認	
3分後				③災害拡大の防止 ・通電火災を防止のためブレーカー電源を落とす	
5分後				④正しい情報の伝達 ・家の廻りの安全確認 ・隣近所で声を掛け合う	
10~30分後	家 の 外 で	火事発生 ・初期消火できる ・初期消火できない			
30分~1時間後					
1~3時間後				⑤外出中家族の安否確認	
②隣近所や地域で何を協力する？					
12時間~1日後	・避難所開設				
数日後					・緊急輸送路開通 ・物資搬入
2週間後	・通電、給水再開				・(できるところから)避難所開設



自主防災組織の見直し

- 迅速な伝達手段と体制を構築する
- トランシーバーや防災LINEなど
- 普段から顔の見える関係づくり
- 地域の関心を高める
- 防災フェア(訓練)の実施

